



主の祈り



やまもと まこと 山元 眞 神父

今、わたしは五十四歳だが
 幼少の頃は今よりたくさん祈
 りをしていたような気がする。
 小学四年生の頃から新聞配達を
 して、終わると教会に寄り、朝
 ミサの侍者(ミサの奉仕)をし
 ていた。夜になると家族そろっ
 て晩の祈りをし、何かの用で親
 がいない時などは、兄弟だけで
 祈りをしていた(たまにはふざ
 けて姉にしかられていたが)。
 毎週の主日のミサは欠かした覚
 えがない。聖母月やロザリオの
 月にはロザリオの祈りが晩の祈
 りに加わった。決まった祈り
 (しなればならない祈り)が山
 ほどあつて、いつも足がしびれ
 ていたことを思い出す。

幼稚園児の頃から神父になり
 たいと思っていたので、中学に
 なると福岡の小神学校に行った。
 ここでも祈りの「お務め」がき
 ちんとあつて、それはとても重
 要なことであつた。夏休みにな
 ると「お務め表」(正式には何と
 呼んでいたかは忘れてしまった
 が)があり、毎日の「お務め」
 をちゃんと果たしたかどうかを
 ○×で記入して、休みの終わりに
 提出しなければならなかった
 (結構、ごまかしたものだ。今告
 白する)。その項目は以下の通り
 :ミサ・聖体拝領・朝の祈り・
 念祷(黙想)・聖体訪問・ロザ
 リオ・聖書奉読・霊的読書・晩
 の祈り……まだ憶えてた!

きちんとやっていたかどうか
 は別として(?)この「お務め」
 は二十六歳の司祭になるまで続
 く。「いや、まだ終わっていない
 い! この『お務め』は死ぬま
 で続くのだよ!」という神学生
 時代の霊的指導者の声が天から
 聞こえる。

祈りはたくさんするもの。祈
 りはたくさんしなければならな
 い。長い間、そう思ってきた。
 祈りの「言葉」もたくさん暗記
 していたが、今ではもう忘れて
 いる。

話はさかのぼって今から約二
 ○○○年前。イエスはある所で
 祈っておられた。祈りが終わる
 と、弟子の一人がイエスに、「主

よ、ヨハネの弟子たちに教えた
 ように、わたしたちにも祈りを
 教えてください」と言つた。そ
 こでイエスは言われた。「祈ると
 きには、こう言いなさい。

『父よ、

御名が崇められますように。

御国が来ますように。

わたしたちに必要な糧を毎日
 与えてください。

わたしたちの罪を赦してくだ
 さい。

わたしたちも自分に負い目の
 ある人を皆赦しますから。

わたしたちを誘惑に遭わせな
 いでください。』

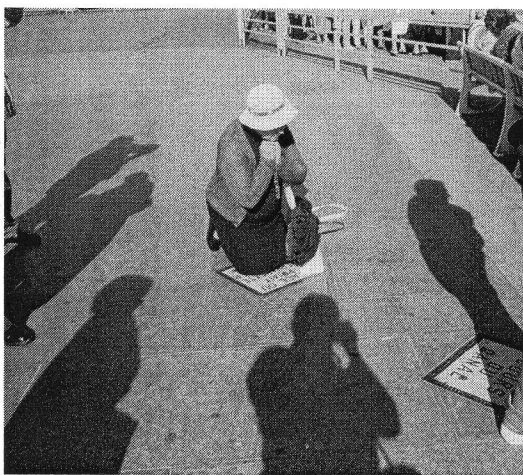
(ルカ福音書11章1〜4節)

この祈りが二〇〇〇年の間
ずつと唱えられてきた祈り。イ
エスが、このように祈りなさい
と教えてくださった祈り。完璧
な祈り。マタイ福音書では、そ
の祈り方についても教えられて
いる（6章5〜15節）。祈るとき
には戸を閉めて、奥まったこ
ろで隠れて祈りなさい。くどく
どと言わなくてもいい。言葉数
が多ければ聞き入れられると思
ってはならない。神はあなたが
願う先に、すべてをご存知なの
だから。

ずいぶん前のある研修会での
出来事。最終日の全体会で司会
者が意見を求めた。ある高齢者
の方が言った。「最近の若い人は
祈りをしないし、祈りを知らない。
最近洗礼を受けた人も祈り
を知らない。信者がそんなこと
でいいのだろうか」。一人の男
性が手を上げて言った。「わたし
は最近洗礼を受けた者です。確
かにわたしはたくさん祈りを
知りません。ほとんど知らない
といってもいいでしょう。でも、
わたしは、イエスさまご自身が
教えてくださった祈りは知って

います。そして、その祈りを毎
日度々唱えています。それで充
分だと思っています」。

今の社会はウソに満ちている。
見せかけを求め、見せかけのも
のにだまされている。偽物が氾
濫して真実が見えなくなってい



ルルド（フランス）にて

る。本物が見えなくなっている。
世界で人間が中心になり、その
人間は自己中心的になっている。
自分さえよければ…という考え
に充たされている。教会の中
も…。

このような時は原点に帰ると
いい。イエスはどんな祈りをし
たのか。どこで、だれに、何を

祈ったのか。イエスはわたし
たちに何を教えたのか。それは
すべてはつきりとしている。隠
れて…、命の与え主である父
である神に…、その方が知られ
崇められ、その方のお望みがこ
の世界に実現するように…。こ
れが「祈り」。

「えっ？ それだけでいい
の？」という声が聞こえる。そ
れだけでいい。イエスがそう言
われた。

長い間、たくさんの祈りをし
てきた。たくさんの祈りを知っ
ていた。でも、何十年もの間
イエスが教えたように祈ってき
たとはいえない。今、わたしに
とって一番大切な祈りは「主の
祈り」。一番大切な祈り方は「主
の祈り」を心を込めて祈ること。
イエスが教えてくださったよう
に。

ミサの時に主の祈りを手を拡
げて唱える時、その時が最高の
祈りの時。ミサに参加している
皆さんと心を一つにして主イエ
スが教えてくださった祈りを唱
える時、その時が最高の時（隠
れて祈ってるのではないが…）。

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株)

沼崎商会

サマリア式典部 沼崎 馨